

健康ふらざ

No.459

企画:日本医師会

爪の変化に注意しよう(爪白癬)

水虫は、爪にもおこることをご存じでしょうか？

この正体は、^{はくせん}白癬菌というカビによる感染症です。

白癬菌は、ヒトの皮膚の角層や毛、爪を好みます。

そこに白癬菌が寄生すると、

水虫(足白癬)や爪の水虫(爪白癬)になります。

特に爪白癬は、日本人の10人に1人、60歳以上では

約4割の人がかかっていると推定されています。

爪白癬は、自覚症状は少ないですが、

爪が濁って厚くなるなど、見た目が問題になります。

でも一番問題なのは、水虫の感染源になることです。

カビが繁殖しないよう、足のムシなどに気をつけましょう。

爪白癬は、見た目が似ている別の病気もあるので、

カビの存在を顕微鏡で確認して診断します。

爪白癬の治療は、飲み薬だけでなく、ぬり薬も登場し、

以前より気軽に治療が受けられるようになりました。

気になる症状がある時は、かかりつけの皮膚科医を受診し、

診断を受けましょう。



典型的な爪白癬

爪の表面は硬く光沢があるが、その下は厚くなって、ポロポロの粉状になっているのが特徴である。

指導：帝京大学医学部皮膚科 主任教授 渡辺 晋一